

こんち新聞

18.9. No.255
 発行 市岡 秋
 責任 0883-88-5292

あわび!!
 2す
 ぬす4にあ
 い、前田家を
 夢合と書まま
 しなが、久保地区
 の洞窟にがす

まだまだ暑い日中が続いていますが、皆様方お元気のこととおもいます。お魚がすぎると風向きが変化して涼しくなるという生活の経験からよく言われるが、今と昔もその通りになり、朝夕は少し寒いかなという日もあります。ススキの穂が数日のうちに、自立つ様に近づいてきました。

コエグロがあちこちに

ススキも自立ちますが、それよりも白い花が多くな見られます。一番多いのがタケの花とボタンズルでは無いでしょうか。あちこちにあります。さて、各集落の周辺では、あちこちに「コエグロ」が増えこまします。各集落ともに、若者が少なく、ほとんどの作業が七代、八代の人達ばかりです。身体のあるうちこちが痛い痛いといひながら毎年のこの季節になると、「コエグロ」に精がたまふ。傾斜地農業にとっては、大切な作業です。

ツリバナの葉を食むアブラヘリカメムシ

ツリバナの葉を食むアブラヘリカメムシ



ツリバナの葉を食むアブラヘリカメムシを防ぐ役割もあり、大変大切な「コエグロ」です。先日、ちよと早く仕事が終わりに帰るというので、知りあいの白さんが、ちよと休憩して居る所へ行って、赤い色をこました。ススキを束にして、運びコエグロを作るのです。主に、女の人が束にして、男の人が運びコエグロを作るのです。なかかコエグロでは、長年やってる人には、こぼれりがあるし、出来ぬあとも、美しい、状態に作りあげます。その時、作業を休むときに、上の早真しをとりまします。刺し針は出来ぬいかも」と言ひながら繰り返しています。

